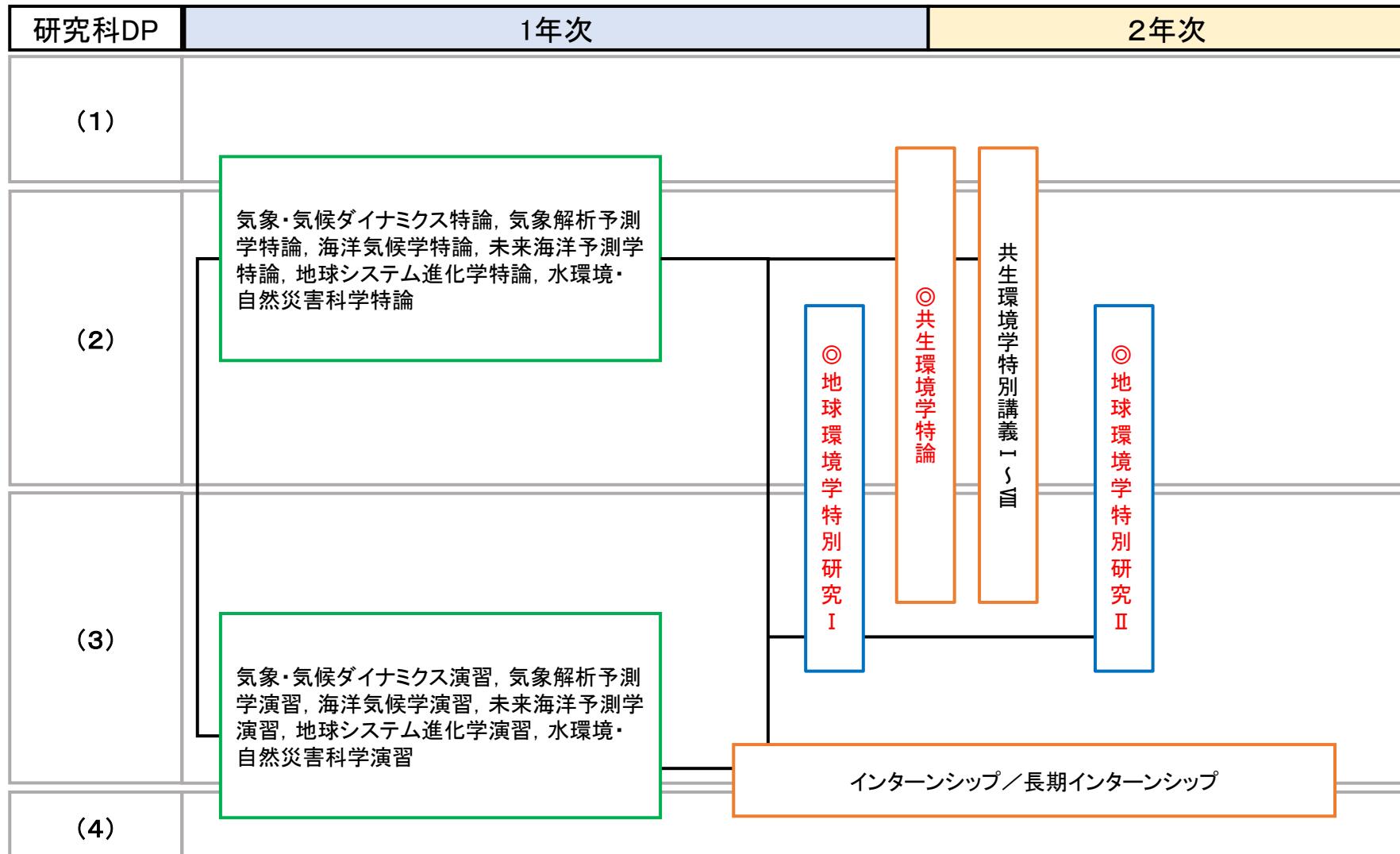


【博士前期課程ディプロマポリシー】

- (1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけている。
- (2) 自然環境を損なわない生物資源の開発、保全、利用に貢献できる生物資源学の専門的な知識と技術、経験を有している。
- (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
- (4) 他者と協力して問題解決に取り組むために十分なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。

◎必修科目 選択必修科目



生物資源学研究科 博士前期課程 共生環境学専攻 地球環境学講座

区分	授業科目名	到達目標	研究科 DP との関連			
			(1)	(2)	(3)	(4)
教育研究分野授業科目・選択必修	気象・気候ダイナミクス特論	An introduction to dynamic meteorology を全て理解すれば気象や気候の力学全般についてはほぼ理解したといつても過言ではない。「全て」までは要求しないが、気象や気候そしてホンモノの地球環境の専門家を目指す諸君には7割程度は理解できるようになることを目指す。	○	◎		
	気象・気候ダイナミクス演習	気象や気候そしてホンモノの地球環境の専門家を目指すために、気象・気候ダイナミクス特論で学んだ内容を観測データを用いて天気図の作図などの演習を行う。学んだ理論が実際の日々の大気や気候値ではどのようにになっているのかについて、計算機を使った演習にて理解を深めるとともに、実践で使える計算機技法を身につける。			◎	○
	気象解析予測学特論	教科書の内容の7割程度を理解できることと、専門的内容を学生同士で議論することができる目標とする。	○	◎		
	気象解析予測学演習	学生が、最新の研究動向に関する知識をえること、それを自ら収集する能力を得ること、先行論文を批判的に読むことができること、研究内容を他の学生と議論できること、をめざす。			◎	○
	海洋気候学特論	地球温暖化などの海洋気候変動予測に必要な基礎知識・技能を得る。	○	◎		
	海洋気候学演習	海洋気候学に関する知識とともに、実際に解析することにより実践的な能力を身につける。			◎	○
	未来海洋予測学特論	専門書の通読を通して、大気・海洋の力学・熱力学・放射過程の解析に必要となる実践的な知識を得る。	○	◎		
	未来海洋予測学演習	自ら最近の研究論文を読解し、現在得られている知見、残された課題等に関する議論ができるようになること。			◎	○
	地球システム進化学特論	地球をシステムとしてとらえる自然観、生命を不可欠とした現在の地球システム観、持続可能な社会の構築に必要となる視点、自然エネルギー社会の展望などを習得する。	○	◎		
	地球システム進化学演習	持続可能な社会の構築、自然エネルギー社会の展望について具体的なヴィジョン・ロードマップを作成する実践的な研究能力を身につける。			◎	○
科目講座共通	水環境・自然災害科学特論	水環境と自然災害科学について、高度な理論を理解する。	○	◎		
	水環境・自然災害科学演習	水環境と自然災害科学について、高度な解析手法を身につける。			◎	○
	地球環境学特別研究 I	地球環境学に関する問題・課題等についてこれらの解決のための実践や理解を深める。		◎	○	
	地球環境学特別研究 II	地球環境学に関する問題・課題等についてこれらの解決のための実践や理解を深める。		◎	○	

専攻共通科目	共生環境学特論	資料を輪読し、担当箇所をさらに調べて発表し、自分の意見、考えを示す。それに対して違う立場からの質問、議論をお互いに行うことにより、環境問題に対する科学的な視点から考える力を身につける。	○	◎		
	共生環境学特別講義Ⅰ～Ⅷ	専攻の教育研究内容に関連する学外の教育研究機関で活躍する研究者による講義により、先端的研究の現状を理解するとともに、国際的かつ学際的な視点から研究する姿勢を身につける。	○	○	○	
	インターンシップ	企業等で就業体験をすることで、自己の適性を正しく知ること、社会人として必要なマナーを習得すること、専門知識の学修や研究に対する目的意識を確立することを到達目標とする。			○	○
	長期インターンシップ	企業等で、長期にわたり研修・研究を行うことにより企業の技術者として必要な実践的能力を習得する。また、企業の技術者としての研究・開発能力を習得する。			○	○

【博士前期課程ディプロマポリシー】

- (1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけている。
- (2) 自然環境を損なわない生物資源の開発、保全、利用に貢献できる生物資源学の専門的な知識と技術、経験を有している。
- (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
- (4) 他者と協力して問題解決に取り組むために十分なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。